

組織力・計画的な学校改善

～「目指す子どもの姿」を共有した取組と成果普及の体制整備を通して～

別海町立別海中央小学校

学 級 数 22

(校長 河原 宣孝)

1 実践テーマの趣旨

本校は、平成25年度から「学校力向上に関する総合実践事業」における指定校として、全教職員が一つのチームとなり、包括的な学校改善に8年間取り組んできた。本年度からは、これまでの学校力向上に向けた取組を基盤に据えながら、地域指定として、成果を普及・啓発するシステムの構築に向けた取組をスタートした。

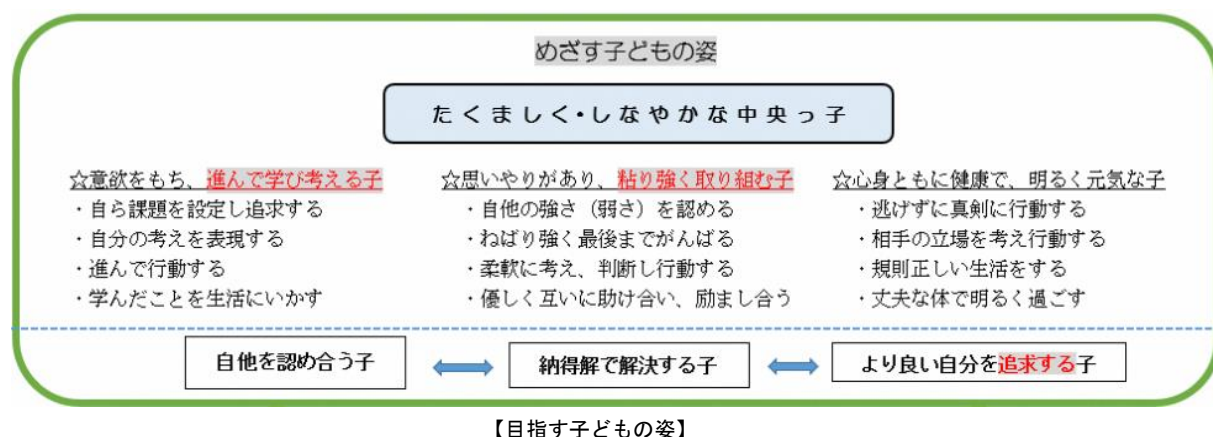
また、教職員の構成に目を向ければ、経験年数5年以下の初任段階教員の割合が毎年35%以上を占めており、人材育成を計画的、継続的に推進する必要がある。

このようなことから、全教職員が学校経営の全体構想を共有し、共通行動の下、以前から本校の指針としている「学び続ける学校」をキーワードに、「目指す子ども像」を共有した組織的・計画的な取組の改善・充実や全教職員による人材育成を図るとともに、指定校をはじめとして、町内や管内に成果を普及していくことを目的として取組を推進した。

2 「目指す子どもの姿」を共有した具体的な取組について

(1) グランドデザインに示す「目指す子どもの姿」の具体化

「目指す子どもの姿」を「たくましく・しなやかな中央っ子」と設定し、年度当初に全教職員で話し合い、知・徳・体の観点から具体的な姿を学校全体で共有した。このことを通して、学校における全ての教育活動は、「目指す子どもの姿」の達成に向けたものになっていることを常に確認しながら、教育活動の質の向上に図るようにした。



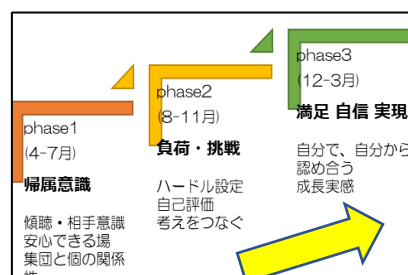
【目指す子どもの姿】

(2) 「目指す子どもの姿」の共有と取組の振り返り

「目指す子どもの姿」である「たくましく、しなやかな子ども」の育成に向け、「各学年で目指す6つの子ども像」と1年を3期に分けた「学校全体で意識する3つの局面」を設定するとともに、年度末には、「目指す中央っ子会議」において取組を振り返り、次年度に向けて、新たな目標を設定するようにした。

【様々な集団の中で個の在り方、その中で生き方】	
第5学年	多様な集団の中で、自分の在り方、生き方
第6学年	を探究し続け、納得できる生き方、在り方を 目指す、将来への可能性を想像する子 (step5・6)
【一人ではなく、みんなとなら解決できる経験】	
第4学年	他者理解をしようとする子 (step4)
第3学年	他者の存在に気づく子 (step3)
【自己肯定感を高める】	
第2学年	自他の強みや弱みを認める子 (step2)
第1学年	自己の強みや弱みを認める子 (step1)

【各学年で目指す子ども像】



【学校全体で意識する3つの局面】

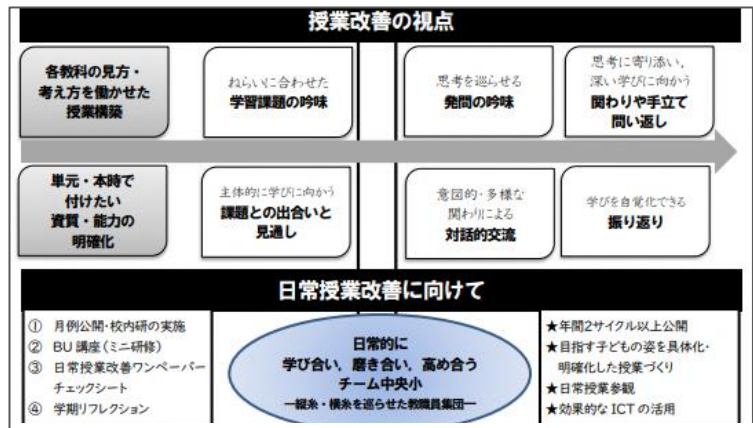


【「目指す中央っ子会議」の様子】

(3) 日常の授業改善を図る校内研修

グラウンドデザインで示された「目指す子ども像」の達成に向けて、校内研修においては、日常の授業改善を図ることが重要と考え、授業改善の視点を明確にするとともに、「月例公開」や「ブラッシュアップ講座」、「日常授業改善ワンペーパーチェックシート」の活用等に取り組んだ。

また、年間2サイクル以上の公開や日常授業参観を行うとともに、効果的なICTの活用について、取組を進めるようにした。



【日常の授業改善に向けた授業改善の視点と取組】

(4) 組織的・計画的な人材育成

経験年数5年以下の初任段階教員の割合が毎年35%以上を占める本校では、全教職員による人材育成が図られるよう、①校内初任研、②日常授業の改善・充実を図る校内研修、③日常のジョブ・シャドーイング、④初任4年次の教員がリーダーとなって、主体的に取り組むメンター研修の4つの研修を位置付け、計画的に実施できるようにした。



【初任4年次の教員がリーダーとなるメンター研修】

3 地域指定の取組による成果普及

中核校である本校の実践を指定校と共有するため、地域協議会を開催するとともに、別海町内の小・中学校に成果を普及する機会を設けた。

地域協議会は、①働き方改革や家庭・地域との連携を図る「校長部会」、②人材育成や学習環境の整備に向けた取組を進める「主幹、教務部会」、③日常の授業改善を図る「研修部会」の3つの部会を設定し、中核校の成果を指定校に普及するとともに、取組を検証し改善を図るようにした。

また、別海町教育研究協議会と連携し、授業改善に関わる取組等をリモートで公開し、別海町の小・中学校に広く普及した。



【地域協議会「主幹、教務部会」による協議シート】

4 成果と課題（成果：○、課題：●）

- 校長の経営方針を踏まえ、各学年で「目指す子どもの姿」や「目指す子どもの姿」の実現に向けた段階的な過程について全教職員で共通理解を図ったことにより、教職員の目的意識が高まるとともに、指導のベクトルが揃い、組織的な取組を充実させることができた。
- 初任段階教員が主体的に研修する場の充実など、人材育成のシステムが確立されてきており、教職員の資質向上を図るとともに、組織力の向上につなげることができた。
- 中核校の取組を、指定校をはじめとして、町内や管内に普及する体制を整備するなど、包括的な学校改善を推進する学校モデルを提示し、実践の成果を普及・啓発するシステムの構築につなげることができた。
- 教育活動の質を向上する「学校における働き方改革」の意識を高め、それぞれの役割を一層明確にする必要がある。